

【タイトル】経営研修会
【担当委員会名】研修委員会

【日時】平成22年2月3日(水) PM3:30~5:00
【場所】法人会館

【演題】「危ない会社の見分け方2010」
【講師】(株)帝国データバンク東京支社 石川俊之 営業部長



【概要】

石川講師は、まず**最近の倒産傾向**について「2009年を2008年と比較して、倒産件数は増大しているものの、上場企業に限った倒産件数は、政策効果による倒産抑制もあり、前年度と比較して半数強に減少し、それに比例して全体の倒産負債総額もほぼ半数強に減少している。」と述べた。

今後の動向として注目されるのは、2010年度の公共事業費が低水準となったことによる**建設業** デフレによる値下げ競争で体力を消耗する**サービス**、**流通業** 今後の円高水準次第で収益が悪化しかねない**製造業**の三つの事柄をあげた。

続いて、本題の解説に移り、まず、**企業評価におけるヒトの問題**、例えば、

取引先の社長について、経営経験、業界経験、社長就任の経緯、オーナーかサラリーマンか等、また、登記面をみて役員構成（特に役員の中に社長の兄弟が多数いるか否か＝兄弟のいさかいで経営危機に陥るケースもある）をチェックし、常に把握しておくことが重要であると説いた。

次に**企業評価におけるモノの問題**について 最近不動産を売却、不動産を取得していないか（不動産登記をチェック） 新しい担保設定はないか（取引銀行以外に仕入先、ノンバンク等の担保がついているか否か） 社屋、設備の老朽化、外観等のチェック 倉庫の周囲や商品の取り扱い（商品が乱雑により扱われていないか）などを十分に調査する必要があるという。

これらをもとに、石川講師が同社の松本支店長（長野県）時代に見聞きした倒産事例について紹介し、最後に粉飾決算の見抜く基本を伝授して、講演を終了した。



粉飾決算の見抜く基本を伝授